



人が人を支えるとは

——「ホスピス運動」の創始者、
シシリー・ソンドースの生き方を通して——

元立教女学院短期大学学長
「ちいさな風の会」代表世話人

若林 一美



はじめに

Hospice (ホスピス)という建物につけられた名称とされていることが多い。しかし近代のホスピスの創始者であるシシリー・ソンドースは、「末期患者のケア」のシステムを指す言葉であるが、広義には、「愛の共同体(コミュニティ)」を目指す運動である、と述べている

ソンドースが生み出した近代のホスピス運動は、末期の痛みとはどういうものを理解し、より効果的な処置をするにはどうすればよいか、ということに関心を向けることから始まった。このことは「よき死」という古い考え方を復活させ、身体的には弱っていく中でも、患者が依然として成し遂げることのできるものに注意を向けることにもなった。

ホスピス運動の歴史と思想を中心に、「死生観」について、また人が人を支えるとはどのようなことか考えていきたい。

ホスピスとは

「ホスピス」という言葉には長い歴史があり、語源は「主人」と「客」の両方を意味するラテン語に由来している。その言葉には、「交流」「ホス

ピタリティー」「与えつつ受けること」といった意味合いが含まれる。

この概念は、およそ2千年前からあるもので、キリスト教徒を弾圧したユリアヌス帝の時代に、聖ジュロームの使徒であったファビオラが迫害された人たちの避難の場所を設けたことに始まっている。中世のホスピスは、街道沿いの修道院を中心にしたもので、巡礼者や旅行者が身を休める場所であった。そこではだれでもが快く受け入れられ、旅を続けられるまでいつまでも滞在することができた。中には看取られて死にゆく人たちもいた。

ホスピスが一般の人たちの間に広まっていったのは19世紀末で、アイルランドのシスターたちがダブリンに聖母ホスピスを開設したことによる。ここで行われた死にゆく人に対する特別な配慮が、のちにホスピスという言葉に特別な意味を付加することになった。その後にできた聖ジョセフ・ホスピスに至り、「死の看取り」という目的が明確になる。とくに1958年、ソンドースが医師として聖ジョセフ・ホスピスに赴任してからは、疼痛緩和に力点をおき、患者ばかりでなく、痛みや死別の悲しみを負った遺族に対しても、大きな理解を示し、支援を行うようになったのである。

やがてホスピスは、運動として組織的な方法をとるようになり、世界各国で、さまざまな方法で、人々のニーズに合うように解釈されるようになった。痛みのコントロールと、症状の緩和、家族へのサポートはどこでも実践することができ、必ずしも独立した環境が必要ではない。大切な点は常に地域社会のニーズと、患者の希望であった。

ソンドースがホスピスの発想を得てから、実際に開所に至るまで、実に20年の歳月を要している。のちに「医療革命をおこした女性」「死の顔を変えた女性」と称されるようになったが、医療界全体の中では孤立するような逆風を受けていたこともある。

聖クリストファー・ホスピスとソンドース

彼女の信念を支えたものというより、むしろ信念を形づくったことそのものに、一人の男性との愛があると聞き、私は偉業をなした女性にとっても身近な思いをいだくことになった。

シシリー・ソンドース(1918年6月22日～2005年7月14日)に初めて会ったのは1970年代の末ころで、彼女が60代になったころであった。180センチ近い長身ということもあって、少し近寄りがたい印象を受けた。その後も何度かホスピスを訪ね、会議などで会う回数が増えるにつれ、偉大な人というよりはむしろ自らの思いや、夫への愛などを大切にす、とても人間らしい人柄に目が向いていったのである。それだからこそ、人を支えられるのだ、ということにも思い至ったのである。

聖クリストファー・ホスピスは、ロンドン郊外の住宅地、シドンハムというところにある。今のようスタイルのホスピス思想が、世界中に広まるきっかけをつくったホスピスで、1967年に開設された。創始者であるソンドースは医師でもあるが、もともと彼女は看護師になりたいと思っていた。看護職の資格取得のための勉学の途中、持病の腰が悪化し、看護職を諦めざるを得なくなった。しかし、あくまでも、病む人の役に立つ仕事をしたいという願いから、今でいうメディカル・ソーシャル・ワーカー(慈善家)の仕事につくことになった。こうして働き始めた病院で、彼女は一人の男性と出会って恋に落ちる。彼らの思い

が、現在の聖クリストファー・ホスピスに発展していくことになったのである。

1947年秋、彼女が慈善家として、初めて受け持った病棟にいた患者の一人にデビッド・タスマという男性がいた。ポーランド系ユダヤ人で、彼はワルシャワの貧民窟を暴動前に抜け出してイギリスに渡ってきていた。教養が特別高いというわけではなく、彼自身みずから「ただの荒くれ者の年寄り」と称していた。

職業はウエーターで、イギリスには親戚もおらず、友人もなかった。年はまだ40に過ぎなかったが、自分の一生は無駄であったと感じており、手遅れのがんを病んでいた。しばらくの間、職場復帰をしたが、自宅で倒れ、そのとき呼ばれたのがソンドースだった。彼女はすぐに彼の家に向き、救急車が来るまでのひとときを二人は過ごすことになるが、デビッドは彼女に向かって、自分は死ぬのだろうかを尋ねている。彼女の答えは「イエス」であった。この日を境に職業的なものにすぎなかった二人の関係が深い友情に発展したのである。そしてこの関係はさらに深まり、間もなく愛情にまで発展する。

デビッドが亡くなるまでに二人の会った回数は25回にすぎない。死別を予期しての二人の逢瀬は一瞬がとても大切で、その思いは、一言一句の短い言葉の中に如実に要約されている。二人に残された時間が短いかを知っていたので、ソンドースはどんなに小さな思い出でも心に留めておくつもりであった。

二人の会話のほとんどは、「死にゆく人はどのようにすれば安らぎが得られるのか」に、集約されていた。

ある日のこと、彼は急に寂しさが込み上げたのか、ソンドースにこんな頼み事をした。

「何か慰めの言葉でもかけてくれないか」と。彼女はユダヤ人である彼を思って、詩編「死の陰の谷を歩くとも私は悪魔を恐れぬ。神が私とと



参考文献:「シシリー・ソンドースの生涯近代ホスピスの創始者」

もにあらせられるから。その杖が私に力をお与えになるから」という一節を読み上げた。彼はもっと聞きたがった。彼女は思い出せる言葉がないので聖書を読みたいと言うと彼は、「ダメだよ。ほくは君の心にあるものだけが聞きたいのだ」と言った。そこでシシリーは、その夜帰ってからデブロフェーンディス(赦しを請うた詩編中の詩)を暗記、翌日その詩を彼にささげたのである。

このときデビッドとの間で交わされた会話は、のちにホスピスの根幹をなす重要な啓示であったとソンドースは述懐する。末期患者のデビッドが求めたのは、表面的な言葉ではなく、かたわらにいるその人の心から発せられる言葉であった。それこそが病む人の慰めに通じることを、このとき彼女は学んだのだ。

普通は患者と恋に落ちるなどということはタブーなのかもしれないが、彼女は、自分に起きた感情にも正直に目を向ける勇氣を持っていた。

彼の病気と死がきっかけになって、今までにない新たな、そして創造的な可能性が芽生えた。人生の最後の数カ月をともに過ごしたこの若き女性を通じ、彼の死はここに実を結んだといえるのである。こうした二人の話し合いがよりこまかく、具体的なものになり、またこの考えを實際面で生かすにはどうしたら良いかまでを考え始めるようになる。デビッドには自分を生かすもう一つの方法が浮かんだ。彼女を遺言執行者に決めること、そして500ポンドを彼女に残すことがそれである。「大した金額ではないけれど、ほくはね、君の家の窓になるよ」と彼は言っている。

そして今、聖クリストファー・ホスピスの玄関わきの窓ガラスには、「デビッド・タスマからの贈り物」と書かれたプレートがはってある。

Be there 人が人を支えるとは

二人がともに過ごした時間は本当にわずかなものでしかなかったが、二人の出会いを思い出に終わらせず、ホスピスへの発想へと結び付けていった。

デビッドとの出会いから学んだもの、二人の夢を実現するために、手始めとして、彼女は医学部に入る勉強を始めた。医師免許を取ったのは、40

才になる直前だったが、その後も幾多の困難を経て、着想から20年、ついにホスピスが生まれたのである。

死を前にした人たちは、身につけていた一切のおおいを取り払ってしまう。「素のままのその人」として…。

このことは患者の前に立つ人にも同様に裸で相手の言葉に耳を傾けられるかを問いかけてくる。

シシリーがホスピスで出会った末期の人に、「看護するうえで欲しいことは何か」と尋ねたところ、「自分のことをじっと見守ってくれること」という答えが返ってきた。そのとき彼女が感じたのは、「うまくやることではなく、だれかが一生懸命にその人のことに心を砕く、そのことが支えに通じる」ということだった。

彼女の発想や患者に対する接し方は自然で、常に苦しむ人とともにある。「死は不当なこと。お互いに愛しあい、支え合ってきた人が、突然に引き離されるのはとんでもないことです。ある意味では、人々が痛みや困難を背負うこと自体不当なことなのです」という考えを踏まえたうえで、死をできるだけ耐えうるものにし、「死ぬ瞬間までその人らしく生きる」ことに力を貸したいというのが、ソンドースの終生の姿勢であった。

ホスピスは形ではなく心であり、

“Be there”

「ともにあること」を実感することでもある。

★若林一美先生の著作

「〈いのちのメッセージ〉—生きる場の教育学—」(ナカニシヤ出版)「死別の悲しみを超えて」(岩波現代文庫)「亡き子へ—悲しみを超えて綴るいのちへの証言」(岩波書店)「自殺した子どもの親たち」(青弓社)「デス・スタディ」(日本看護協会出版会)「シシリー・ソンドース 近代ホスピスの創始者」(翻訳)(日本看護協会出版会)他。

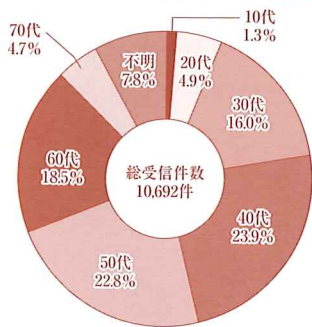
2019(平成31)年 1月～6月 相談実績

■電話相談

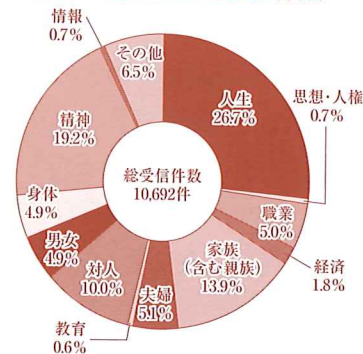
2019年下半期(1～6月)の電話相談は、10,692件(男性4,266件、女性6,426件)であった。相談内容については、心身の不調や家族を含む人間関係、生活困窮など複数の問題を抱え、この先の不安や孤独を訴える相談が多く寄せられた。

自殺傾向：13.0% 平均通話時間：30分

<図1> 電話相談年代別件数



<図2> 電話相談問題別件数



<図3> 年代別受信件数と自殺傾向率

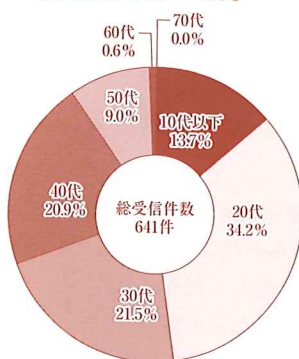


■インターネット相談

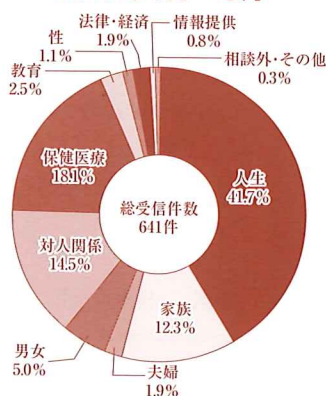
インターネット相談東京システム(1回制)は、2017年11月より、埼玉ののちの電話、東京ののちの電話の共同で実施している。相談件数は、全体で641件(男性181件、女性460件)であった。うち東京センターが対応した相談件数は、245件で、自殺傾向率は39.3%、10代～30代の若年層からの相談が7割であった。対応に苦慮する深刻な相談が多く寄せられた。

また、2017年10月より日本ののちの電話連盟によるインターネット相談事業(3回制)は、秋田、盛岡、仙台、新潟、栃木、埼玉、東京、川崎、静岡、浜松、愛知、奈良、愛媛、福岡、熊本センターにより実施されている。相談受付件数は全体で863件(男性283件、女性567件、その他13件)であった。うち東京センターが対応した相談は、42件、自殺傾向率は55.0%と高い傾向であった。

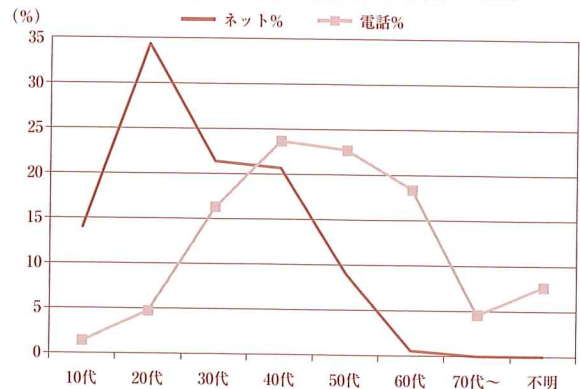
<図4> 年代別受信件数
(東京システム)
2019年1月～6月



<図5> 問題別受信件数
(東京システム)
2019年1月～6月



<図6> ネット(東京システム)と電話の
年代別受信件数比較 2019年1月～6月





「講座プロジェクト」のご報告

東京いのちの電話は、日々の活動成果を地域社会に還元するアウトリーチプログラムとして「講座プロジェクト—対話をとおして人との関係をみなおそう—」という活動をしています。

この講座は、「いのちの電話」の活動を紹介する講義と、ロールプレイをして体験的に学ぶセッションとで構成されています。昨年9月の東京福祉大学に続き、本年7月に某私立大学で教師を目指す学生65名を対象に講座を行いました。

わたしたちが日々の相談活動の中で培った“気持ちでの関わり”を、実際にロールプレイして頂きました。参加した学生からは普段の何気ない会話について、改めてふりかえる時間を持てて良かったと、感想が寄せられました。



また、ボランティアを始めるきっかけを語った相談員に熱心な質問があったり、事後に行ったアンケートでは、ボランティア活動に関心がある学生の多さも実感したりする事ができました。

今後もより多くの方に、「いのちの電話」の活動を知って頂き、地域社会に「支え合い」の輪を広げていきたいと思えます。

オープンセミナー

「聞く力」のチカラ

作家・エッセイスト 阿川佐和子氏

去る9月21日に、厚生労働省自殺防止対策事業オープンセミナー「聞く力」のチカラ(講師：阿川佐和子氏)が、銀座ブロッサム中央会館ホールにて開催されました。

講演では、対談の仕事をはじめられた頃、作家城山三郎氏との対談時、城山さんはただひたすら「そう」「それで？」と、ほんの一言挟むだけでニコニコと楽しそうにされており、気づけばインタビュアーである自分一人が喋って、対談は終わっていたそうです。その対談から、聞き上手というのは、相手が「この人に語りたい」と思うような聞き手になれば良いと気づかされた。



(撮影：柘木 功)



また聞き手が質問を20程度用意し、次から次へと質問すると、相手の話の中に大きなヒントが隠されているのに気づかない。相手の話を聴けば、必ずその話の中に次の質問が見つかることなど、実体験に基づいた「聞く力」の大切さを感じる講演となりました。

介護を題材とした著書「見る力」の内容も、ご両親の介護のお話をユーモアたっぷりに語られ、参加者に明るく力強いエネルギーが伝わる講演内容でした。

【アンケートに寄せられた感想をいくつかご紹介します】

*今まで人の話を聞いても、聞いたつもりになっていただけなのは、という事に気づかされ聞く力の大切さを感じました。

*聞く力、見る力、苦労や悲しみの中にもユーモアを忘れない心、相手の気持ちを察する力、喜んで話したくなる様に聞く力、沢山の気づき、楽しいエピソードとても参考になりました。

*大変な体験をさらりと、ユーモアに変える力を見習いたい。

*暗くならず明るいエネルギーで、グッとくる講演でした。

*相手あつてのコミュニケーション。相手を受け止める事がまず第一歩。心がけたいです。



ご支援ありがとうございます



2019年4月1日より9月30日までに、下記の皆さまから温かいご支援をいただきました。
一同深く感謝申し上げます、ご報告いたします。(敬称略)

企業・団体、宗教法人・教会、学校など 5,536,031円

一般財団法人東京都弘済会	100,000	株式会社博報堂	50,000
一般社団法人霞会館	1,000,000	株式会社博洋エージェンシーサービス	50,000
一般社団法人アジア婦人友好会	150,000	公益財団法人日本社会福祉弘済会	500,000
一般社団法人信託協会	30,000	公益財団法人原田積善会	300,000
一般社団法人全国銀行協会	300,000	公益財団法人毎日新聞東京社会事業団	300,000
一般社団法人日本メイスン財団	1,000,000	東京Iゾントクラブ	200,000
いのちの華コンサート実行委員園城三花	500,000	日産労連リック局	100,000
株式会社瀬尾本店	100,000	U Aゼンセン	500,000
ウエスト東京ユニオン・チャーチ	20,000	宗教法人林海庵	50,000
カトリック碑文谷教会	10,000	日本キリスト教団野方町教会アーモンドの会	4,000
サレジオン・シスターズ管区本部	10,000	本浄寺	12,031
宗教法人救世軍	100,000	マリアの宣教者フランシスコ修道会	20,000
学校法人立教学院	10,000	新島学院	15,000
学校法人立教女学院	50,000	明治学院中学校・東村山高校	30,000
女子聖学院PTA	25,000		

個人 2,991,200円

青木 節子	一宮 栄利子	江川 雄一	小野口 美知子	木山 昭栄	小谷津 光子	志田 俊郎
青山 博務	イトウ アキコ	江木 明美	小野寺 裕子	清浦 煦子	近藤 淳	篠崎 恵美
青山 由美子	伊藤 英子	江野沢 和枝	織畑 伊都子	熊谷 和重	西海枝 恵子	清水 かほる
秋元 満智子	伊東 尚	江幡 園子	傘木 弘之	熊倉 ハルミ	斎藤 和香子	清水 迪子
明峯 明子	伊藤 誠二	江平 清	笠原 雅子	熊野 剛雄	斎藤 友紀雄	志村 節子
浅井 清	伊藤 都志子	大枝 東樹	梶永 富美枝	栗田 洋子	斎藤 洋子	下川 三代
朝居 健	伊藤 三保子	大形 通野	柏原 保久	栗林 定友	斉藤 竜太郎	東海林 敦子
浅野 千恵子	犬尾 順子	大川 佳子	梶原 茂子	慶田 直子	酒井 高男	末木 千代
味岡 奈保子	犬塚 靖子	大川 昌巳・貴子	片山 知子	小池 多喜子	坂入 操子	末松 渉・正子
芦川 弘道	井上 恭一	大久保 節子	加藤 恵	小泉 豊	榊原 未知子	菅沼 美智子
熱海 道代	井上 陸子	大越 俊男	門田 文子	小泉 良子	坂本 美波	菅原 裕子
荒井 親雄	今井 實	大多和 豊・喜美子	門野 豊子	来馬 明規	桜井 こう朔	杉浦 弘輝
安斉 達雄	今村 久美子	大塚 和夫	金平 輝子	河野 堇	桜井 元雄	杉本 英子
安藤 逸夫	今村 恭子	大鍋 みさお	亀山 康子	桑折 啓子	佐古 一久	杉山 克好
飯島 延浩	入川 敦子	大野 拓也	川北 かおり	郡山 千里	佐々木 彰子	杉山 のり子
家田 荘子	岩崎 建治	大生 仁雄	川島 恵美子	小堺 三千代	佐々木 淳	鈴木 幸四郎
池田 弓子	岩沙 京子	岡崎 廉治	河田 静子	小崎 和代	佐々木 雅彦	鈴木 浩子
伊沢 和子	上田 密記子	岡田 公枝	河津 緑	顧 哲夫	佐々木 庸子	鈴木 幸子
石井 和生	上田 裕子	岡田 光穂	川橋 幸子	小高 富美子	佐藤 智子	鈴木 喜子
石井 千賀子	上野 高尚	尾川 公子	菊池 洋子	後藤 嘉代	佐藤 寛朗	角谷 貞夫
石川 忠正・正枝	牛田 具保	小川 道子	北川 暁子	小林 静江	左藤 浩子	関口 邦興
石田 好子	梅澤 伸嘉	大栗 ますみ	北島 柳子	小林 誠三	佐藤 弘乃	関田 員子
石橋 勇	浦部 忠久	小澤 康司	木村 文治	小松 寛之	佐藤 牧子	関根 眞由美
石原 晶世	瓜生田 隆子	小田 京子	木村 裕子	小谷津 孝明	宍戸 信次郎	曾根 晶子

田井 順之	谷村 春樹	長島 るり子	花塚 一弥	星野 正美	湊 美都子	山崎 美奈子
高嶋 ひさ	田和 恭介	中野 千磨	馬場 元毅	穂積 みゑ子	宮崎 秀雄	山澤 寛子
高月 三世子	茅野 純	中林 正子	羽生 凱哉	細川 良枝	宮崎 美枝子	山下 恵子
高橋 喜久江	塚崎 誠一・恭子	中村 明実	土生 恭子	本藤 育子	宮谷 仁太郎	山下 ひろみ
高橋 廣見	塚本 迪子	中村 多喜子	早川 治子	前田 幸一	村井 富美子	山田 妙子
高橋 正孝	津田 菊枝	中村 稔	原 一司	前田 道子	村上 聖子	山本 雅江
高橋 礼子	土田 春雄	長山 忠雄	原田 玲子	牧志 功子	村上 正孝	湯川 富士子
高林 利夫	津村 有紀子	中山 麻貴	半田 節子	増岡 久美子	村田 和俊	横倉 季代
高松 多加子	湊元 みさお	生木 ヨシミ	東野 文恵	増田 ひとみ	村田 邦子	横堀 三和子
高松 満至	露木 多磨子	成田 久美子	東山 幸子	増田 三千子	村田 美津子	吉田 君代
高柳 晶子	鶴田 典子	成田 喜恵	樋口 浩子	町田健一・千鶴子	森岡 啓	吉田 千世子
田久保 静雄	寺嶋 知子	鳴海 直子	平林 晴子	マチダ ムツオ	森本 恵美	米沢 宏
竹内 嘉男	寺本 明男	南部 雅人	広瀬 裕子	町田 裕子	森本 富士子	若井 永
竹口 きよせ	ドウトレイ昌子	西川 秀夫	深沢 亮子	町村 淳子	八木 真人	和木 祐一
竹崎 眞理子	徳富 梯子	新田 敦子	福井 田鶴子	松井 倫子	安田 展久	和田 恵美子
竹中 スミ子	徳永 明子	ヌマタ イクミ	福田 健二	松澤 明子	安田 はるみ	渡瀬 トモ子
田島 三枝子	富沢 みよ子	根橋 剛	福山 清蔵	松下 起子	安広 美和子	和田 敏明
田島 祥乃	豊嶋 良一	野口 善延	藤井 忠幸	松谷 洋	柳井 良子	渡辺 純子
舘 裕子	長井 幸夫・優子	野田 泰子	藤谷 秀子	松村 美佳	柳坪 正子	渡辺 久剛
田中 牧子	仲 里路	萩原 恭子	藤田 禧	真野 正子	柳沢 信一郎	渡邊 秀夫
田中 カツ子	長沢 道隆	長谷川 倫子	古川 みつ	三浦 邦夫	柳下 弘	渡部 真美
田中 菊子	中寫 邦	八村 悠紀子	古田 和子	三上 郁夫	山岸 啓一	
田中 純子	中島 桂子	服部 ひろ子	古屋 千鶴子	三木 晴雄	山口 公成	匿名 22名
田中 暉通	中島 千晶	服部 洋	古屋 英彦	三村 徳子	山崎 順子	

その他のご支援

*未使用切手、書き損じ葉書など多数ご寄付いただきました。

*ご芳名の記載もれや誤字などがございましたら、お手数でございますが事務局までお知らせください。

ご支援をお願いします

いのちの電話は相談員の無償の奉仕で支えられておりますが、24時間365日電話相談を受け付けるには、研修費、広報、事務費、借室料など年間約3,000万円の運営費が必要です。その運営費の大部分が皆さまからの尊いご寄付に頼っております。ご寄付には個人、法人ともに税制上の優遇措置もございます。ご支援よろしく申し上げます。

○税額控除について

社会福祉法人いのちの電話に、平成27年11月17日付けで「税額控除に係る証明書」が発行されました。これに伴い平成27年11月17日以降の当法人へのご寄付は、現行の「所得税控除制度」に加えて「税額控除制度」との選択適用が可能となりました。

また収支決算書等は当法人のホームページ、機関誌、事業報告等で情報公開に努めて参ります。

今後とも、社会福祉法人いのちの電話にご理解とご支援を賜りますよう、こころよりお願い申し上げます。

☎ご寄付振込先

〈郵便振替〉

00140-3-162972

社会福祉法人 いのちの電話

〈銀行振込〉

三菱UFJ銀行 神保町支店

普通口座 1084827

フク)イノチノデンワ

東京いのちの電話 後援会

1972年11月に発足した「いのちの電話後援会」は『いのちの電話』の事業遂行に必要な財政的支援を行うと共に、支援者・支援団体の開拓を行い、チャリティー事業の実施を通して、その発展に寄与することを目的としています。

今年度のチャリティー事業は9月27日(金)に『こころをつなぐコンサート2019』を霊南坂教会礼拝堂において開催。日本とドイツで活躍されます西尾純子さんのパイプオルガンと牧野緞(さおり)さんのピアノ演奏で耳馴染みのある曲も演奏され、司会の黒米牧師の楽器と曲の解説もあり、会場の多くの方々に感動の言葉をいただきました。

夜の開演にも関わらず、多くの方々と厳粛な時間を共有できたことに感謝いたします。



10月19日(土)には恒例の『チャリティーバザー』を東京ルーテルセンターにて開催。今年も個人、協力企業の皆様からご寄付、献品等を多数いただきました。

当日はあいにくの天候にもかかわらず、地域の方、いのちの電話関係の方、相談員、OB・OGの皆さんなど大勢の方々が来られ、買い物を楽しんだり談笑したりする姿が見受けられました。皆様のご支援ご協力に感謝申し上げます。

バザーご寄付ありがとうございました。

- ・曙フーズ株式会社・ソロブチミスト東京一広尾
- ・玉の肌石鹸株式会社・ミヨシ石鹸株式会社・ジャパンローヤルゼリー株式会社
- ・ローズ産業株式会社・株式会社エイワ・重光真奈美さま・ピカボサークル・OB・OGの皆様

2021年には節目の50周年を迎えます。さらに支援の輪が広がるように力を尽くしていきたいと考えております。『いのちの電話』の活動がさらに充実したものになりますよう、これからも後援会へのご理解とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

いのちの電話

ひとりで悩まないで、
こころの苦しみを、お話しください。

24時間

[電話相談]

03-3264-4343

(24時間受付)

自殺予防

[毎月10日は、フリーダイヤル]

0120-783-556

毎月10日8時から翌朝8時まで(24時間・無料です)

[インターネット相談]

<https://www.inochinodenwa-net.jp/>

東京いのちの電話 検索

[東京いのちの電話ホームページ]

<http://www.indt.jp/>



相談員 募集

こころとこころをつなぐ「聴く」
一緒に活動しましょう。

困難や危機にあって、誰ひとり相談する人もなく、自殺などさまざまな精神的危機に追い込まれている人たちが、再び生きる喜びを見つけ出すことを願いつつ、よき隣人として活動しています。

いのちの電話の相談員になっていただくには、養成研修受講者応募の手続きを経て、一定期間の研修を修了して認定を受けることが必要です。

活動趣旨に賛同し、電話相談活動に参加出来る無償ボランティアを募集しています。

応募資格：22歳から65歳

募集人数：40名 募集期間：2020年9月～11月

お問い合わせ：☎03-3263-5794(13:00～17:00)

※詳しくはホームページをご覧ください。

2019年度
社会福祉法人 いのちの電話【東京】

発行人：末松 渉
TEL：03-3263-5794(代)
FAX：03-3264-4949
印刷：モリモト印刷(株)

この広報誌は、共同募金からの
配分金で作りました。

